

## ごあいさつ

第44回日本赤十字社医学会総会の開催にあたりましては、会員の皆様方から一方ならぬご支援ご協力を賜り、ここ雄大な自然、丹頂の舞う釧路の地で開催できますことに、心から御礼を申し上げます。

本医学会は、昭和39年にスタートしてから、会員の皆様の学会に対する積極的な参加と熱心な研究が引き継がれ、今年で44回目を迎えることとなりました。今回の演題数は過去最多となる640題が予定されており、本医学会に対する皆様の高い参加意識が窺え、今後も本医学会が益々発展していくものと期待しております。

さて、今回の総会におけるメインテーマとして、「地域の医療を！地域とともに！」が掲げられております。まさに、今大きな社会問題となっている地域医療の危機的状況に焦点を当てたテーマであり、日本赤十字社も例外なくこの危機に直面しているのが現実であります。

深刻な医師不足の問題や地方病院の相次ぐ診療休止、病棟閉鎖など、地域による医療格差は一過性のものではなく、全国の医療機関がその対策を講じるために様々な取り組みをしているところであります。しかしながら、“住む地域によって十分な医療が受けられない”という厳しい現状は、医療に携わる者はもとより、地域の住民の皆様も、自分たちの地域医療を守りたいと考えており、地元の病院の診療体制や経営状況などに高い関心を持ち始めているのも事実であります。今こそ地域が共同して、崩壊の危機に瀕した医療体制を立て直すために取り組んでいく必要があるのではないのでしょうか。

地域医療の崩壊の大きな要因となっているのが、地域や診療科によって極めて深刻な医師不足の問題と言えます。日本赤十字社としては、地域における医師確保対策として、退職した医師に医師不足病院を紹介するシステムの導入や医師派遣拠点病院から医師不足病院への医師の派遣、並びに女性医師が働きやすい環境の整備など様々な方策を実施しているところであります。しかしながら、医師不足の病院の必要数にはまだまだ充足している状況ではなく、本年6月には、これまでの日本赤十字社医療センターとともに、新たに名古屋第二赤十字病院を医師派遣拠点病院に指定し、さらなる医師派遣事業の推進を図ったところであり、今後もより効果的な方策を見出し、地域の中核病院としての役割と責任を果たしてゆけるよう、皆様とともに考え、前進してまいりたいと決意を新たにしております。

この4月から始まった地域医療計画には、4疾病5事業を担う病院名が掲載されていくところですが、赤十字病院はこれまでも増して、公的医療機関として救急医療、へき地医療、小児医療等の政策的医療に積極的に取り組み、また、医療機能の分化や連携等、国民のためになる医療を提供していくという責務があります。また、このこととともに、「赤十字」としての特色を発揮し、地域に、あるいは全国にその存在意義を示していかななくてはなりません。医師不足の問題や医療費抑制策に加え、高度先進医療化を目指した設備整備にかかる負担が大きくなるなど、安定した経営基盤の維持が困難を極めて、病院を取り巻く環境は厳しさを増す一方であります。こういう時こそ、赤十字のグループメリットを最大限に発揮し、材料の共同購入、医師を含めた職員の合同研修、資金の相互融通等、全国規模のネットワークを生かした協力体制の強化を図っていく必要があるのではないのでしょうか。そのためにも、施設や職域を越えて多くの職員が一堂に会す本医学会において、他の施設の職員と活発な意見交換や情報交換を行い、赤十字グループとしての団結を深めていただくことが、本医学会の果たすべき重要な役割の一つであると考えております。

今回の総会開催にあたりましては、釧路赤十字病院長の二瓶総会会長をはじめ、総会運営にご尽力いただきました関係者の方々に深く感謝申し上げます。今後とも学会の運営と更なる発展のためご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



日本赤十字社医学会  
理事長 **山田 史**  
(日本赤十字社事業局長)